八ヶ岳　赤岳主稜

2009.3.14～3.15
メンバー　L釣（名ばかり記録）
山本（実質リーダ）　橋立　後藤

例年のことだが，3月は仕事が慌ただしくて山のことを考えている余裕がない。それでなくてもここ数年，山のモチベーションが長期低落傾向なので，雪稜担当となったものの，あわよくば誰も参加者がなく自然消滅してくれればなんて罰当たりなことを考えていた。

ルートと言い，計画書といい山本さんがすべてセッティングし，メンバー募集をしたところ橋立さんと後藤さんが奇特にも参加！

こんな僕の下心を見透かしたように，今度は天が冬型の気圧配置で微妙な揺さぶりを掛けてきた。

「武能西尾根はちょっと無理だと思うんです。」と山本さんからの電話が来る。

「そうですよね。」と僕。本当は止めましょうと言いたいところを，いつものあいまいさでごまかしていると，

「八なら大丈夫と思いますから，赤岳主稜に変更しましょう。」と，さすがは山本さん。あくまで山にこだわる態度には常に脱帽するしかない。

13日は送別会があり，美濃戸口で合流した。

14日は，山本車でさらに奥の駐車場まで。さすがは水平対向エンジンの4WD，アウトバックの威力を見せ付けられる。行者小屋の天場まで入って行動を終える。

15日，いい天気だ。山肌には雪もびっしり付いていて，この季節にしては八ヶ岳がすごく荘厳に見える。

文三郎の途中から右ルンゼに入り，主稜の取り付きに向かう。既に先行パーティが側壁に取り付いていた。

山本さんと橋立さん，僕と後藤さんがザイルパートナーとなり，先行パーティがチムニー状の凹角を抜けた後，まず山本パーティが先行した。待っている間にガイドパーティが後ろに並ぶ。プレッシャーだなと思いながら，凹角を登った。このごろろくにアイゼントレもしていないので，動きがぎこちないことが分かる。

落ちないことを天に祈りながらピッチを伸ばす。随分頼りないパートナーだと後藤さんも感じたことだろう。

山本パーティは順調に進んで行くが，僕たちは途中，ガイドパーティのプレッシャーに負けて，後ろに付くことになった。順番待ちが長くなり山本パーティに大分遅れてしまった。

結局頂上に抜けた時には1時間くらい差がついてしまったようだ。寒い中，山本さんと橋立さんを待たせてしまった。頂上で4人で握手して下山した。